1999年 3月21日 発 行

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

19 ベルツ生誕150年記念号

発行者 平 形 義 人
発行所 ぐんま日独協会
〒377-0007
渋川市石原966 母心堂 平形眼科方
TEL0279-22-0149 FAX0279-24-6867

ぐんま日独協会クリスマスの集い　　平成10年12月6日

■ハイマート19号の主な内容■

1999年を迎えて・日独交流の歩み……2
(財)日独協会常務理事・花井清氏寄稿……3
県国際交流まつり ……3
クリスマスパーティーありがとう……4
行事報告・日独環境問題比較……5・6
ドイツ交友録・最新情報……6・7
会員のお便り、催しの案内……8

＊お知らせ＊

ぐんま日独協会第12回大会公開講演会

◆日　時　99. 4. 15（水）　PM1：15～3：30
◆場　所　ホテルメトロポリタン高崎6F（高崎駅ビル）
◆費　用　参加費1人 2,000円及び平成11年度会費
（個人3千円、家族5百円、法人1口1万円）
を同封の振込用紙にて4月5日までにお振込み下さい。欠席の方は年会費のみ

※公開講演会は「E.V.ベルツ博士生誕150年」を記念して日本温泉協会会長木暮金太夫氏草津ベルツ協会副会長沖津弘良氏を講師に迎えます。多数の皆さんの参加をお待ちしております。
駐車場完備、8Pの案内・地図を参照

1999年を迎えて

ぐんま日独協会（J. D. G. G）
会長　平形義人

今年から丁度111年前の1888年(明治21)にベルリンに居た井上哲次郎(哲学)の呼びかけで『和独会』が誕生し、これが日独協会の起源となりました。昨秋ホームスティにベルリンからOlaf Degen君を推薦されたGunther Haaschベルリン日独会長の『独日協会の昔と今』(1997) に詳説されています。

以来100年幾多の変遷を経て、ぐんま日独協会は1988年4月17日ハリヤー大使を前橋に迎えて、清水県知事以下多数の名士の御参会の下に発会、全国20番目の日独協会となりました。

なお、この年に全国日独協会連合会が結成され(財)日独協会長丸田芳郎が初代会長に推挙されました。このことは、J. D. G. Gの顧問関口陽二、塚越平人等の群大(工)同窓と云うことで、J. D. G. G法人部結成に貢献して頂くこととなりました。丸田会長は、当時東西ベルリンの境界近くの蒼然の中に、菊の紋章を残したまま朽ちかけた旧日本大使館の建物を中曽根首相と官民一体となって再建され、欧州の中央に文化交流の殿堂となってベルリン『日独センター』として復活されたのです。

その初代日独センター総裁の鍵を頂いた甲斐文比古がJ. D. G. G第二回総会(1989)にユンク公使一行と共に御来県下された際、少林山洗心亭を視察されました。この時地元の作家朝雲久児臣が案内されたことが著作の契機となり『もうひとりのブルーノ・タウト』と云う畢生の名作が誕生したのであります。(同書P15－P18) 本書はブルーノ・タウト再認識の書として、J. D. G. G内に留まらず、広く国内における日独文化再発見です。その他の賓客を皆様と共に回想したいと存じます。

W. ハース大使夫妻、H. D. ディークマン大使夫妻、クリストフ・ブリューマー公使、ヨーゼフ・クライナー日本研究所長、I. H. キルシュネライト所長夫妻、W. シュルテ参事官、江尻進副会長夫妻、園田和朗副会長、木村敬三ベルリン日独センター総裁、(財)日独協会副会長、花井清常務理事、道正邦彦評議員、河村繁一理事、常木実教授、藤田眞之助医・歯・薬委員長、古池好評議員、吉田茂孝常務理事等々10指に余ります。皆様夫々に清水、小寺両知事の表敬訪問、前橋、高崎、渋川、沼田市長と交換、上毛新聞社訪問、榛名、伊香保、老神、視察、土屋文明記念館マイカー散歩、日独親善ゴルフ迄会員、有志の御力添えで無事果たすことが出来ました。既に離日された方、故人になられた方々もありますが、ぐんま日独を通じて、多くの方々が群馬を知り、群馬について語ってくれていると存じます。

昨年12月、日独青少年交流コンサートに渋川ナタリ(小六)さんが出演し、1昨年のクリスマスには植村菜穂さんのヴァイオリンに独奏が加わり、春の総会には普門義則教授の薩摩琵琶、高崎第9合唱団の歌声共に心に残っています。

J. D. .G. Gは春には総会、秋には国際交流まつりに参加、12月にはクリスマスを楽しみ、春秋二回ハイマートを発行し、特に昨秋は名簿を発行し、会員の結束と交流を計れる様になりました。

1999年は**『ドイツに於ける日本年』**と申しまして、名誉総裁は**皇太子殿下**と**ヘルツォーク大統領**。実行委員長は**樋口広太郎(財)日独協会会長**と**フォンピーラー・ジーメンス社会長**。1月から9月迄を導入期間とし、9月開会式。明年9月迄実施期間。テーマは**『21世紀における日独の新たな出会い』**であります。

また本年は**E. V. ベルツ博士**の生誕150年に当たります。明治9年来日され、29年間滞日、西洋医学の神髄を教えられ、殊に群馬では伊香保、草津の両温泉を内外に喧伝してくださった恩人です。J. D. G. Gではこの年に相応しい第12回年次総会を迎えるべく、別表の如く開催する予定です。皆々様の奮っての御参加、知友お誘いの上御出かけ下さいますよう、お願い申上げ本紙冒頭のご挨拶と致します。

リキシャマンとベルツ博士

G. J. D. G 12年次総会予定

開催日 1999. 4. 15 (木)　於 高崎駅 メトロポリタンホテル

A. ぐんま日独春の昼食会（丹頂の間Ⅱ）　時間 11:30～13:00　会費 5,000円

B. 第12回年次総会（丹頂の間Ⅲ）　時間 13:00～13:45　会費 2,000円

C. ベルツ博士生誕150年記念公開講演（丹頂の間Ⅰ）　開場 13:30 無 料　講演 14:00 ご来聴　15:30 歓 迎

演題①「E.v.ベルツ博士と伊香保」　講師 日本温泉協会会長 木暮金太夫先生
②「E.v.ベルツ博士と草 津」　草津ベルツ協会副会長 沖津 弘良先生

D. マイカーによる上州散歩　時間 15:45～17:00
少林山達磨寺 洗心亭（ブルーノタウト事蹟）他

E. ぐんま日独の夕べ　於 伊香保温泉 ホテル金太夫　☎ 0279-72-3232
時間 18:30～　FAX 0279-72-3007
費用 日帰り 5,000円　宿泊 15,000円

◎Eの希望者は直接 ホテル金太夫へ 4月1日までにお申 込下さい。

"ベルツ生誕150年を迎えて"

(財)日独協会常務理事 花 井 清

豊川市に在るベルツ夫妻と戸田家祖先の供養塔の件

1. 所在地：愛知県豊川市上宿町（又は八幡村）の「西明寺」境内。
花ベルツ夫人（旧姓 荒井、1864～1937）の墓は、Stuttgart の市営墓地ベルツ家墓である。

2. 供養塔建立経緯：花夫人は昭和5年7月、夫人の菩提寺である「西明寺」に浄地を選び、ベルツ博士と戸田家祖先の供養塔を建立し、又2,500円で「百年定期」をつくり寄進した（利子は毎年入ってくる由）。宝塔には「戸田家先祖世々霊」と、ベルツ博士の戒名、「済生院仁海慈航居士」、花夫人の戒名、「紹生院花心貞淑大姉」、及び愛兒ウタ（4才で死去）の戒名、「爲花顔玉容童女霊」が刻まれているとのこと。

3. 花夫人の生い立ち：夫人は文久4年（1864）2月10日神田明神下で出生。父荒井熊吉（旧姓戸田）は愛知県御油宿（現在の豊川市）の旧家戸田家の長男で荒井家の養子となる。熊吉は江戸へ出て、上野山下で商業を営むが、上野の戦災（戊辰の役）を受け、郷土御油宿へ帰り、明治3年8月死去した。その後花さんは、母そでさんと共に上京したが、母は明治16年6月東京で死去。花さんは明治14年頃にベルツ家に出入りし（ベルツ博士は明治9年（1876）6月来日）、明治20年頃結婚（但、結婚届は明治37年11月28日）。
明治38年（1904）6月、ベルツ博士は花夫人同伴で帰独し Stuttgart に居住。博士は1913年（大正2年）死去。翌1914年第一次大戦起きる。花夫人は大正11年単身帰国し、麹町平河町に居住し、のち杉並区和泉町に移り、昭和12年12月7日東大医学部付属病院で胃癌のため死去、74才。

報 告

平成10年度群馬県国際交流まつりは11月8日（日）秋晴れの下前橋市競輪場（旧）空地で、県内各地の国際交流団体共催のもとに賑々しく開催されました。

ぐんま日独協会は例年通り對馬副会長提供の展示品を供覧し多くの見物人の注目を集めました。

尚、ベルリン国際食品見本市に出品した銘酒水芭蕉を製造元の永井酒造により試飲に供した所、大好評でした。尚、当日の参加国は20ヶ国、見物人は2万3千人。

清水恭代　北爪和男　木暮澪子　対馬良一　メッシング オラーフ　沢井修子　佐藤進一　田口久美子

Xマスパーティーありがとう

高崎市　伊　藤　廉　平

1998年12月4日恒例のぐんま日独協会のXマスパーティーが昨年同様群馬会館地下食堂でたのしく開かれました。

会場正面には日独両国の国旗が吊り下げられ日独友好親善のシンボルとしてたのもしく見えました。
会場に一段と映えておりましたモミの大枝は例年の如く平形会長のご好意によりご自宅より運ばれた物であります。
飾付は女性会員に付けて頂きました。

開会の頃には、50名近い会員の方が集まりました。定刻二時、司会進行は佐藤進一先生により進めて頂きました。

平形会長による98年を振りかえってと題しまして当協会が実施した諸行事や会員の活動記録が披露され、役員を始め皆様の日常のご協力とご支援に対し感謝いたす次第です。

次いでご来賓の方のご挨拶がありそれがすむとXマスソングの合唱がありました。とくに女性コーラスによるXマスソングはXマスムードを一段と高め、なごやかなムードを作って下さいました。
この間アトラクションも加わり各テーブルにも談笑の輪が広がってゆきました。

宴たけなわの頃、赤い服に白ヒゲを着けゴム長靴をはいたサンタのおじいさん二人（仮装者伊藤、井上両氏）が大きな袋を肩にかけ各テーブルを廻って皆様のお手元にささやかな贈物をお届けしました。次いでXマスの最大のおたのしみであるプレゼント交換が始まりました。

皆様の心のこもった贈物、そして参加者のお手元にとどく贈物は何か。本年はきっと素晴らしい贈物が来るはずだ。希望に胸をはづませる瞬間です。プレゼンターの田口様木暮様の鮮やかな手さばきにユーモアも加わり、全員に贈物が届けられました。お互いに包みを広げ微笑になごむひとときであります。

それから本年になって入会された新会員の紹介がありました。お仲間がふえる事は心強く嬉しい限りです。

つづいて各テーブルから有志の方によるスピーチが開かれました。

短いスピーチでありますが内容には興味をそそる話題がありました。

東西統一の当初の頃には社会、経済、教育など社会体制の相異から困難な問題も山積し、苦難に満ちた出発点でありましたが両国民の情熱と努力により今日ではバランスの取れた国家として成長している。戦後の一時期ドイツは日本人の目にも観光と音楽の国と言ったイメージが強かったが、最近のドイツは化学技術に創意工夫が加わり経済再建、環境保護、安全保障等と言った分野に欧州の中心的存在として頭角を現している。

こう言った内容のお話しが聞かせて頂き、参考になりました。各人の持時間に制限があり、長く聞けず残念でした。

最後に参加者全員による記念撮影があり四時半に散会致しました。

たのしいXマスパーティを有難うご座いました。遠くから参加して頂いた会員の方、新規の方、それぞれ当協会をサポートして頂き感謝致します。本年のXマスにもお集り下さい。お友達もたくさんお連れして参加して下さい。

わが生涯の“最良の日”

川　島　孝　一

若さの秘訣は、①日光浴（戸外での動き）②森林浴（自然との対話）③人間浴（人との触れあい）を欠かさないことだと、いわれています。が、私なりに付け加えさせていただくなら、④感動浴も―つまり、“すごい”“よかった！”“たまらない”といった心の躍動を常に生みだすこの要素も忘れてはならないと思います（加えておきたいものです）。

私自身（古希への道程）を振り返えってみても、このことがいえます。いわば“若さの原動力は感動の数と量”にあると実感したからです。さて、私にとって、最大な感動は、昨年の5月9日。両陛下が全国植樹祭へご臨席の途中、子持村役場へお立寄りになった際（奉送に出向いた時）島田村長から“幼稚園長です”の紹介によって、両陛下より次のようなお言葉をいただいたことです。

天皇陛下のお言葉　「幼児教育は大変でしょうが、頑張って下さい」

川島　「陛下、21世紀を背負う子ども達ですので、立派に育てていくように全職員が懸命に努力していくつもりです」

天皇陛下のお言葉　「ご苦労でしょうが、お願いします」

皇后陛下のお言葉　「園児は何歳児ですか」

川島　「はい。陛下、4歳児と5歳児です…日々逞しく成長しております」

皇后陛下のお言葉　「そうですか、元気に育てて下さい」

川島　「はい。かしこまりました」

―最後、両陛下に次のことを申し上げました。

川島　「両陛下も、ますますご健康でいらっしゃってください」

両陛下のお言葉　「どうもありがとう」

両陛下の物静かで、優しく、温かみのあるお言葉は、まさに感激と感動そのものでした。

「日独青少年交流コンサート」に出演して

前橋市　渋川ナタリ

12月12日、新群馬会館にドイツから7人の演奏家がやってきた。ヴァイオリン、チェロ、クラリネット、ピアノでコンクール優勝を果した14才から18才までの学生だ。日本勢は私を入れて10名。少々せまい楽屋に集まった私達は、出番までの数時間を共に過ごした。英語や片言のドイツ語でお互いを紹介しあう者、音楽情報をきく芸高生、そして昼食後、静かになったと思ったら、空いている個室（何とトイレまで！）に、蜂の子みたいに楽器を持った子がつまって、寸暇を惜しんでさらっている。リハーサルでそのレベルの高さに驚いたが、本番での堂々たるプロ意識はとても私と2才位の差には思えない。本物にふれた感激と心に残るカロリーナとミヒャエルの素晴らしい演奏に、彼らと同じステージをふめた幸せをこれからも大切にしたいと思った。

緑の週間（Gruene Woche）

前橋市　佐藤　ち江

1999年ベルリン国際食品見本市（緑の週間）は1月22日から31日迄開かれました。群馬県では昨年に続き今年も多くの企業が参加し展示しました。之迄ベルリンに対する私の印象は東西分裂の頃の恐怖に満ちたものでしたので、それを払拭する意味で20年振りのドイツ訪問でした。

群馬県のグループは20日出発の第一班と26日発の第2班ですが、私は第2班に加わりました。ベルリンでは茲十年間お付合しているメッシング夫妻やハーシュ独日協会長さんにお目にかかる事も訪問の目的でした。尚此所でヴァイオリンの研修に励んでいる植村理葉さんにお会いしたのも楽しい思い出です。

メッセ会場にて

見本市の会場はとても広大で千葉の幕張メッセより大きいとの由。群馬からの出品は酒、茸、しょう油、漬物等ですが展示品は結構売れました。ドイツとの交流がこういう形で行われている姿を見て一入力強さを感じました。因に県からの出展者は次の通りです。赤城フーズ(株)、大利根漬(株)、県経済連、正田醤油(株)、鶴田食品工業(株)、永井酒造(株)、針塚農産(株)、村岡食品工業(株)、森産業(株)。

ハーシュベルリン独日協会長と筆者

日独環境問題講演会

今般、下記のような講演会及び座談会が行われました。

記

日　時　平成11年2月13日(土)　13:30～16:00

場　所　群馬県大渡庁舎　1階　大ホール

主　催　群馬県環境アドバイザー連絡協議会
群馬県環境生活部環境政策課

テーマ　環境先進国であるドイツ及びドイツ人から見た日本の環境問題

講　師　小林ドリス先生・小林ユリア先生
…ドリス先生は、ドイツのウルム市生まれ、群馬県立女子大の小林喬教授（ぐんま日独協会顧問）の夫人で、玉村町に在住…
…ユリア先生は、小林先生夫妻のご子息の夫人…

環境問題についての講演会ですからご覧のように会場も立看板、名札なしのシンプルさです。

小林ドリス先生

内　容

A講演から

1．30年前の日本は、自動車の廃ガス規制を中心に、世界一の環境対策国であった。

2．しかし、その後の日本は、利便性優先の経済第一主義の道を走り、環境問題は棚上げされてしまった。

3．周囲の国々の影響を受けるドイツに比較すれば、島国の日本は、その気になれば環境対策はとりやすい筈である。

4．ドイツのダイオキシン問題は、分別の徹底・焼却場の集約化・機械の高度化等により、解決されていると思う。
現在のドイツの環境問題は、原子力問題である。

B座談会から

1　ドイツのスーパーマーケットでは
(1) トマト・リンゴ等は、すべて『バラ売り』である。
(2) 肉は、かたまりで売ることが多く、トレイに乗っているものはない。
(3) ポリ袋は、くれないし、包装もしてくれない。
(4) ビンは、返却の都度、一本当たり30円位で引き取ってくれる。
ビンは、繰り返し“20回”使用される。
等ドイツの現状が、会場出席者に紹介された。

2　ドイツでは、幼児からの環境教育に力を入れている。

3　リサイクルのための『法制度』が整備され、国民がそれを守っている。

4　ムダを徹底的に排除している。

◎特記事項

1　当講演会には、ぐんま日独協会員も多数参加し、質問・意見発表等を行った。

2　座談会の司会は、ぐんま日独協会員である私（鈴木）が担当した。

以上　鈴木　克彬

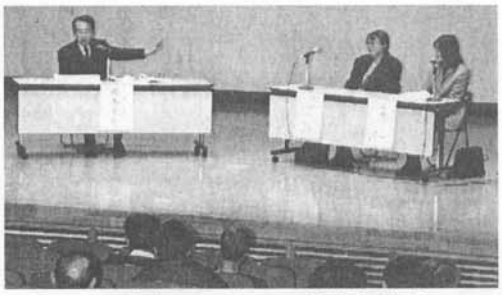
日本と独の現状比較

前橋　環境問題で講演会

環境問題の対策に関して先進国であるドイツと、課題の多い日本の現状や考え方を比較しながら問題点について考えようと、環境アドバイザー連絡協議会と県は、県大渡庁舎で「日独環境問題講演会」を行った。

ドイツ生まれで、玉村町在住の小林ドリスさんが環境問題に対する国民性の違いや各家庭でのごみ処理の方法まで幅広い視点で講演。「廃棄物もダイエットしましょう」と呼びかけた。

また、パネルディスカッションでは、ごみを減らす買い物方法などについて、聴衆からも次々に質問が飛び出し、活発な意見交換が行われた。



日独を比較しながら行われた環境問題講演会
（2/14　上毛新聞記事より）

“講演会と新年会”

2月13日（土）

2月13日午後1時半より、前橋大渡庁舎において行われた「日独・環境問題講演会」（群馬県環境アドバイザー連絡協議会主催）に出席の小林ドリス先生・小林ユリア先生の“ドイツ及びドイツ人から見た日本の環境問題”についての講演を聞いたあと、午後4時半より、前橋市大友町三丁目“八重垣”で当協会の役員、会員有志の新年会が開催された。出席者20人。

講師の両先生も出席され、議事（①4月15日ぐんま日独第12回総会②全国日独協会連合会総会③ハイマート等）が協議されたあと懇親会に移り、出席者一同、美味なる食事に舌つづみを打ちつつ歓談の時を過し午後6時過ぎ散会した。　（角田　勤）

小林ドリス、ユリア両先生を囲んで新年会

ドイツ交友紳士録

前橋市　佐藤　進一

私とドイツとの交流は日独協会と云う組織に便乗して始まりました。それ迄アメリカ、イギリス、オーストラリア等の人々と交流して来ましたが、全く個人的な付合でした。茲11年間協会を通してドイツ人との交際は加速度的にふくれ上ったので、その一端を披露します。

先づベルリンではギュンター・ハーシュ教授を上げる。この人は昔学習院大学でドイツ語を教えた方で、現在ベルリン独日協会長として活躍しております。180cm位の体格ですが、現在腰痛の故前かがみで歩くのが特長です。昨年10月この人の紹介で学生デーゲン君が本県を訪れ渋川の高橋先生宅と川場の永井酒造方へホームスティしました。尚、メッシング夫妻とも10年に亘る家族ぐるみの付合があります。夫人のきえ子さんは盛岡出身の日本人女性です。息子のオラーフ君はベルリン大学に在籍しておりますが、日本語に堪能なので現在慶應大学に留学中です。（3P右下の写真）

女性薬剤師クリステル・ベアーさんは熱心な日本のファンで日本語の手紙を書く人です。昨年長い独身生活に終止符を打ちルドルフ氏と結婚しました。旧東独ノイブランデンブルグに住む新聞記者ビューヒラー氏とも永い交流があります。この人はいつも英語で手紙を書き、ドイツや欧洲の事情を知らせてくれる親切な人です。

ボンのアドラー教授は戦前東京大学へ留学したことのある高令の学者ですが、最近独日協会総会へ顔を見せなくなりました。ボン大学の日本学教授ヨゼフ・クライナー氏も東京から移って既に3年となりましたが、2年前大学へ訪れ面会したのは楽しい思い出です。

フランクフルトの会長はインターコンチネンタルホテルの総支配人シュテール氏で夫人は日本人女性えみ子さんです。独日協会総会には日本人妻を多く見かけますが、彼女等にしてみれば、久し振りに日本語を使える場が総会なのです。他にシュミット女史も高令にめげず活躍しています。一昨年女史の紹介でシュビロス君が本県を訪れ宮城の北爪さん宅と渋川の高橋先生宅へホームスティをしました。

ミュンヘンの会長ギュンター・クリンゲ氏は80才を越す高令にも拘らず、大の日本びいきです。本業は製薬会社の社長ですが名誉上院議員と云う肩書きをもっている政治家です。一昨年東京旅行の折日独協会々員と会食し、平形会長と私は招待されました。

趣味として俳句に共鳴し、短詩型を沢山ものにし日本語訳も添えて出版しました。題して「石庭に佇つ」と「イカルスの夢」を夫々永田書房から出版しております。部厚い函入りの装禎はリッチな片鱗を伺わせるものですが、この度自分の画集を出版しました。若い頃からの作品の集大成は油絵、テンペラ、水彩画等。或時は写実的、或は印象派や抽象派作品を示すもので、正に玄人はだしの傑作が羅列されております。この人が単に事業家として優れているのみならず、全人的にも秀でていることはこれらの作品集によく現れています。

尚、ミュンヘンには「ベルツの花」の史実を探求したシュミット村木真寿美さんが日本人妻として活躍しております。異境にあって妻として母として作家として働くことは仲々大変ですが、これを見事に成し遂げている人即ち真寿美さんです。県内の木暮金太夫氏や中沢晃三氏等とも昵懇の間柄ですが、ご健闘を祈りこの稿を閉じます。

変わらないドイツ

高崎市　井上　晃良

一年半振りに私はドイツに行く機会を得た。目的はニュルンベルクの玩具見本市である。年に1回あるこの見本市は今年で50回目を迎える記念すべきメッセでもあった。

本当はそれ以前から続く歴史的なメッセであるのだが、以前は旧東ドイツのライプツィヒで行われていたため、戦後ニュルンベルクに移ったのである。ニュルンベルクにしても古くから多くの玩具企業がある都市で、今でもなおドイツの玩具産業の中心的位置を占めていると言っても良い。

久しぶりのドイツは2月ということもあり、天候はいつものことながら“Grau in Grau”（灰色の灰色）である。毎日小雨と小雪であったがわかっているので気にならない。初めて訪れる人はさぞ寂しい気持ちになることだろうと思う。

ニュルンベルクの空港の荷物受け取りのターンテーブルの中央には早速ブロックで出来たレゴの広告で到着した乗客をメッセが迎えてくれる演出には感心した。

ニュルンベルクで宿泊しようと思ったが可能だったのは最初の1泊のみで後はメッセのためどこも満員であった。それ程規模の大きい見本市なのである。そのため、私がおととしの帰国迄5年程住んでいた人口約4万人の小都市ヴァイデンに宿泊することとした。そこはニュルンベルクからクルマでも鉄道でも一時間余りで到着する。

ニュルンベルク到着早々に友人との約束があったので待ち合わせの中央駅まで行き、久しぶりの再開を果たした。彼は私がまだ学生の頃、実習先であった当時のドイツ連邦鉄道デザインセンターで私と一緒に仕事をしたモデラーである。モデラーとはいえ、国家試験に合格したマイスター（親方）である。彼は今でもドイツ鉄道でモデラーとして働き、今進めている新しいCIに基づいた駅の旅行センターのデザインモデルを作成している。今ゆっくりとドイツ中の駅のデザインが新しく生まれ変わっているが彼の仕事もこれの一役を担っている。写真で見た彼の仕事は相変わらず精緻ですばらしいものだった。

翌日はホテルを早々に出発し、レンタカーを借りて懐かしのヴァイデンへと向かう。アウトバーンは空いていて運転のストレスが殆どない。ドライヴを楽しむことを日本から来て再確認する。ドイツでは道があってのクルマなのである。だからクルマも道に機能することが求められ、だからこそドイツ車はすばらしいクルマに仕上がるのである。

ヴァイデンは私の去った一年半前と殆ど変わっていない。旧市街は中世のままの姿が残され、且つ人々の生活の中心地として朝市やイベント広場としての機能も合わせ持ち、その町のシンボルである。沢山の旧友や旧知の人と再会した。彼等は皆、以前と変わらず人間的で私を心から歓迎してくれた。

メッセの初日に行くことになった私は再びクルマで会場のあるニュルンベルクへと向かう。世界最大であるだけにドイツはもとより世界各国からも沢山の出展者やバイヤーがこのメッセに訪れる。初日なので混雑を予想していたが意外にそうでもなかった。ただ会場が広いため、全てを一日で見て廻るのは不可能である。あらかじめ興味のあるところをピックアップして見て廻るしかない。私の目的はまず鉄道模型、木製玩具、レゴ等のブロック玩具、そしてテディベアに代表されるぬいぐるみである。

全体の印象としては益々ハイテク玩具と伝統的でプリミティヴな玩具とに区分けが進んできた。そして私の見る限り、伝統的玩具の部類に入る鉄道模型やブロック玩具では新しい可能性を求めてハイテク化が進み（レゴではもうパソコン制御のロボットまで市場に出る）、それ以外は昔ながらの玩具に品質やアイデアを駆使して新しい遊び方の提案が多く、人気も高かった。それに対して日本のお家芸ともいえるコンピューターゲーム等は私が覗いた限りでは人陰もまばらであった。

ドイツの伝統的玩具の代表ともいえるぬいぐるみのブースはいつも盛況だが、その中心的役割を担うシュタイフ社のブースでは、今回はいつになく活気を帯びていた。全く新しいダザインのブースには順序良く魅力的な商品が並べられている。商品は子供に使わせるには贅沢すぎると思われる程の品質であるが、これは創業者マルガレーテ　シュタイフ女史の「子供に与えるものはいつでも最高のモノを」という哲学が今でも脈々と受け継がれているのである。

他には電気を消費する玩具にはソーラーシステム等を使って環境に配慮した商品も注目を浴びている。特に乳幼児の使用するものでは電池の誤飲事故をも防ぐため、この試みは早く一般化されてほしい。

ドイツでもあれ程話題になった日本の「たまごっち」は日本同様もう流行は去っている。それが流行していた当時、ドイツの識者がたまごっちによって大量に消費されるボタン電池は環境に悪影響を及ぼすとの意見があったことを思い出した。ゴミを出さない努力を多くのヨーロッパの企業家は真剣に考えているのである。もちろんドイツの企業が政府の取り決めで資金を出し合って作ったDUALES SYSTEM 社もスタンドを置き、玩具の梱包材のリサイクル活動をアピールしている。

今回のメッセで感じたことは人々の玩具に対する愛着と夢、環境向上に対する益々の努力、それでいて経済効果もねらった魅力的な製品の開発が多くの企業の一つの目標となっていることを強く意識させるものであった。

その2日後にはもう帰路につかなくてはならない忙しい旅ではあったけれども、私が感じたドイツの変わらない目的意識はメッセや再開した知人、友人を通して得た大きな収穫であり、私にとって感慨深いものとなった。それはドイツの美しい街並や広くて深い森、そしていつもの変わらぬ灰色の冬空のように。

ニュールンベルグ市内（角田副会長提供）

私の中のドイツ

4年4組　渋川ナタリ

「明けましておめでとう。あれーすっかり日本人になってるねー。」久しぶりだったせいか、そのおじさんは、しげしげと私の顔を眺めながら、いかにも不思議そうに言いました。私と母は、思わず顔を見合わせてしまいました。たしかに私の父はドイツ人だけれど、私は生まれも育ちもしっかり日本人です。ふだん自分が「なに人」だなんて思いながら生活しているのは、たぶん外国の人達位なものだと思います。私だって、白人や黒人を見れば「外人がいるよ」と思い、決して自分の身に置きかえたりはしません。でもドイツに行くと違うのです。自分は、はっきり外人だと思います。髪の色こそ同じような人がたくさんいるけれど、「わあーなんでこんなに外人ばっかりいるんだろう」とも思います。ところで、周りのドイツ人達は、私をどう思っているのかな？彼らと私をへだてているのは、見た目ではなく、言葉の壁だと思います。ドイツにいる間は父に特訓されるので、帰る頃には、何とか会話も通じあえますが、日本ではまるで習う気がしません。第一、日本語だけで充分間に合うし、これはこれで結構むずかしいし、他にやる事いっぱいあるし…。だが、まてよ。父とは日本語で話せるけれど、オーバーやオーマー（ドイツのお祖父ちゃん、お祖母ちゃんの事）からの電話の時は、あらかじめ母が用意しておいたカタカナを読みまくるのです。内心、話のつじつまが合わないだろうな、と思いながらも、ひたすら「ヤー」と「ダンケ」を連発します。この時は、さすがに「あーはずかしいな」と、私の中の小さなドイツ心が、ますます恐縮します。たった一人の孫というので、こんなにもかわいがってくれるオーバーやオーマーには申し訳ない気持ちで、いつかちゃんとしたドイツ語で色々な話がしたい、と思うようになりました。

オーバーはよく母に、自分達の若い頃の事、特に第二次世界大戦の時の苦労話をしていたそうで、その頃17才だったオーバーは、家族と離れ離れになり、戦後ポーランド領になってしまった故郷の母親と妹を、ドイツに呼び寄せることができたのは、なんと30年後の事だったそうです。貴族出身だった父親も、今はフランスの戦没者外人墓地に眠っているとの事です。そして驚いたのは、今でもドイツ人達は、心の中に「ナチスドイツ」の重荷を背負っているとの事です。自分達が直接には関係しなかったといっても、彼らの深い苦しみは、今だに続いているようです。知り合いの多くのドイツ人が、償いの心で、世界中のボランティアに参加協力しているし、学生も休日には、アルバイトではなく、奉仕活動を進んでやっているので、やはりえらいなと思いました。私自身、ヒットラーがドイツ人ではなくオーストリア人だと聞いた時、なぜか「ほっ」とした覚えがあり、何だか後ろめたい気がします。

私の母はドイツが大好きで、日本の留学生を暖かく迎えてくれたドイツの国や、親切な多くのドイツの人達に、今でも感謝しています。そう言えば母の曽祖父も、明治の頃に医学研究の為、20年間もドイツにいたと聞きました。またドイツの人達には親日家が多く、私達よりも日本の事情にくわしかったり、戦争中も友好国だったというし、お互いに尊敬しあっているのかも知れません。

日本はドイツから学び取り入れたものも多く、特に、医学、音楽、法学はその代表と言えるのだそうです。特にピアノやバイオリンを習っていますが、尊敬する偉大な音楽家達バッハ・ベートーヴェン・ブラームスなどドイツ人がとても多いのです。

こうして考えてみると、私の生まれるずっと前からドイツとは深い関わりがあった訳で、ドイツ語の話せない私は怠惰なのかもしれません。ドイツでは、となりの国の言葉は幼い頃から話せるように習わせるのだそうです。

小さい頃は楽しみだったドイツ行きも、言葉の事を考えると気も重く、学校の宿題がある夏休みなど「めんどくさいな。お母さんが外人なんかと結婚するから面倒なんだよ。私だって結構苦労があるんだからね。」と思っているのも事実だけれど、これからは、学ぶべき所のたくさんある父の国にも誇りを持ち、あらためて二つの国の家族を持つ自分の立場を見つめて、両国の文化のかけ橋になれるように、ドイツ語もしっかり勉強しなければならないと思った新年でした。

ご案内

ぐんま日独協会第12回講演会

【入場無料】

「E.V.ベルツ生誕150年記念」

E.V.ベルツ博士

○講演

・日本温泉協会会長
木暮金太夫氏

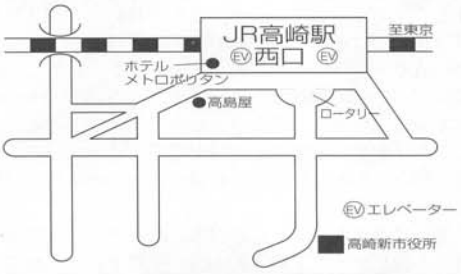
・草津ベルツ協会副会長
沖津　弘良氏

○日時/4月15日(木)
午後2時～3時30分(開場1時30分)

○場所/高崎駅ホテルメトロポリタン高崎
(6F丹鶴の間Ⅰ)

多数の方のご来場をお待ちいたします。

会場案内図



[新会員募集中]

希望者は下記へご連絡下さい。

〒377-0007
渋川市石原966 母心堂 平形眼科方
TEL0279-22-0149 FAX0279-24-6867

◇原稿ご案内◇

日独交流につながるご感想・情報・会員消息・作品を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただくことがあります。（800字以内）

◎原稿の返却は致しません。宛先は表紙参照。